



文学部教育学科 模擬授業風景

学科(専攻)相談コーナー風景



## 第2回オープンキャンパスに 3000人以上が来場

本学を志望する受験生を対象に愛知淑徳大学をより理解してもらうための「オープンキャンパス」を年に3回、長久手キャンパスと星が丘キャンパスで開催しています。

第1回(6月4日)は756人、第2回(7月29日・30日)は3081人の来場者を迎えることができました。

第2回オープンキャンパスは、2日間を両キャンパスで同時開催し、本学で希望している学科・専攻をより知ってもらうために、模擬授業・施設体験を企画するなど、本学をゆつくりと見学し、体験してもらおうことを目標にしました。東海4県はもちろん、北は青森県、山形県など東北地方から約5名、南は沖縄県、福岡県など九州・沖縄地方から約10名の参加者がありました。全国から多くの参加者を迎えることができ、本学へ

の関心の高さが伺えました。模擬授業は大変盛況でした。模擬授業では、全学科・専攻・コースの模擬授業を1日3つまで受講することができ、今後の志望決定に大いに役立つなどの感想が聞かれました。学科・専攻・コースの模擬授業の他にも、学科・専攻を問わず履修することができる全学共通履修科目では、英語、中国語、韓国・朝鮮語を学ぶ言語活用科目、コンピュータ活用科目へ今年4月からスタートした会計教育科目と多様な模擬授業が実施されました。

また、相談コーナーとして、教員による学科・専攻別相談、入試相談、学生生活相談、就職相談、留学相談を行いました。学生生活・就職・留学相談では、ひとり暮らしの相談や、卒業後の就職先などの進路相談、学生生活での留学相談等、充実した4年間を過

すためにどのようにすればいいのか、具体的に考えている参加者が熱心に担当者から説明を受けていました。そして、2007年4月に開設予定(設置認可申請中)の文学部教育学科の模擬授業、学科相談も実施され、参加者の熱心に質問する姿が印象的でした。

両キャンパスの各施設においても、趣向を凝らした企画が実施されました。各施設のさまざまな体験を通じて実際に機器に触れて、施設の充実ぶりにあちらこちらで感謝の声が上がっていました。

また、河合塾講師を迎えての小論文対策講座では、多くの参加者が真剣に耳を傾け、講座終了後にも講師の先生に質問をする参加者も見受けられました。

8月22日から五泊六日で中国研修に出かけました。まず降り立ったのは上海です。物乞いの多い下町の様子と高層ビルが建ち並ぶ外灘の眺めのアンバランスに、生徒たちは衝撃を受けたようです。

翌日、晴れ上がった空のもと訪れたのは春秋時代の呉の都、蘇州。盤門、虎丘など歴史の遺物に身を置きつつ、ガイドの話に皆、熱心に耳を傾けていました。

3日目は研修のメイン、南京一中との交流です。生徒たちは身振りや英語を駆使して意思疎通に努め、同世代の中国の友人ができたことに



南京一中生と、切り絵と折り紙の交流



## 有意義だった 6日間の中国研修

喜んでいました。しかし中には、言葉がうまく伝えられなかったもどかしさに「もつと英語を頑張る!」と宣言する生徒もいました。最後の北京では、宮廷料理や京劇「霸王別姫」を楽しんだほか、故宮始め世界遺産を巡って、その規模の大きさに圧倒されました。

生徒たちは若い感受性で中国のダイナミズムを体感し、一方で日本を客観的に見られるようになったようです。「二個買つから値引きして」と、たった5日間で値切る術を身に付けた生徒たちの高い適応能力にも頼もしさを感じました。



## 小林素文理事長が 大学設置分科会 特別委員に就任

本学園の小林素文理事長が5月、文部科学大臣の諮問機関である大学設置・学校法人審議会の大学設置分科会の特別委員に就任しました。この分科会は、大学の設置の認可に関する事項を調査審議するために設けられています。

理事長は、6月に行われた名古屋市人事委員会の委員長選挙によって、委員長に選出されたほか、日本私立大学協会常務理事、財団法人日本高等教育評価機構評議員、愛知県私立学校審議会委員なども務めています。

## 多元文化学会主催で 「インド舞踊への誘い」 公演



小久保シュヴァ・チャクラパティ氏

7月6日、文化創造学部多元文化学会主催で「インド舞踊への誘い」と題したインド舞踊の公演とレクチャーが、星が丘キャンパス2号館講堂で開催されました。

講師は3歳からインド舞踊を始め、若くしてインドの有名なママタ・シャンカル舞踊団に入団、その後同舞踊団の教師となり、現在は世界各国で公演を重ねている小久保シュ



ヴァ・チャクラパティ氏。人と神の交流手段として誕生した世界最古の踊りといわれるインド舞踊の解説と、講師が主宰するインディアン・クラシカルダンス・トゥールブ舞踊団による舞踊の実演が行われました。

参加した学生や教職員が講師や団員の動きに合わせて踊ったり、インドの民族衣装であるサリーを試着したりと、楽しいイベントとなりました。



## 2006愛知県私立中学校 進学フェア開催



## 「日本の現代住宅 1985-2005」展開催



7月23日～8月6日、長久手キャンパス8号棟5階で、ギャラリー1間巡回展「日本の現代住宅1985-2005」展が開催されました。ギャラリー間が誕生してからの20年間に、日本で建てられた123の住宅作品を模型で概観する展覧会です。

模型は内観が見られる30分の1スケールのほか、100分の1の外観模型、2000分の1の敷地模型などが展示され、住宅の周辺環境から内

部の空間構成まで追体験できるようになっています。これらを一堂に並置することで、この20年間の日本の住宅デザインの潮流が見取れるとともに、時代を画してきた個性的な住宅は、時間がたっても色あせないということを実感させられました。

会場は例年通り、都市環境デザインコースの学生たちがデザインから施工までを行いました。会場造りを通して、現代住宅デザインのエッセンスを感じ取り、これからの課題などに反映させてくれることを期待しています。

今年には学内外への広報にも学生たちのアイデアが生かされ、その成果もあってか15日間で1882人という歴代最高入場者数を記録しました。一般の方や他校の学生からも好評をいただいたようです。

毎年夏の恒例行事となった第7回「愛知県私立中学校進学フェア」が、今年も7月29日30日の2日間、本校を含む県内の私立中学校21校が参加して行われました。

マスコミ、出版界でも中学受験全体及び東海地区の動向に対する関心が今まで以上に高まっており、昨年に引き続き土日の開催であったことや1日目の夕方の各局のニュースや新聞で取り上げられたこともあって、全体の入場者は2日間でべ6977人(昨年比131%)と大変な盛況となりました。

猛暑の中、各校のブースには、

入試や校風について熱心に相談する保護者や児童がひっきりなしに訪れ、会場の松坂屋南館8階ホールは一日中熱気に包まれました。

本校のブースは今年も背景に制服の衿をかたどったレイアウトにイメージコピーを大きく掲げ、今年度から始まった新教育体制に向けての意気込みを示すものになりました。毎年このことから、受験を控えた6年生ばかりでなく、5年生以下の児童と保護者の方の参加も多く、本校については今年度から始まった完全中高一貫体制についての期待が多く聞かれました。



## 年3回の見学会と 入試説明会を実施



## オープンスクールに 約2500人が来校



今年も5月最後の土曜日である27日に1学期最大の行事である中学校のオープンスクールを開催しました。今春完成したばかりの中高新校舎の見学への期待感や今年度から始まった完全中高一貫体制に対する大きな関心が寄せられているため、約2500人と昨年以上にたくさんの方が訪れました。



本校では、より愛知淑徳の良さを知ってもらうために、年に見学会を3回、入試説明会を1回行っています。3回の見学会は毎回切り口を変えて本校のいろいろな面を紹介しています。1回目はクラブ活動・学習・大学への進路指導など。2回目は校長より愛知淑徳高校の教育についての話、生徒や卒業生のスピーチなど。3回目は学園祭への参加で先輩たちの行事にかける情熱を感じとってもらえると思います。

今年も中3の生徒全員が登校し、会場係や案内係としてしっかりと役割を果たしてくれました。

参加した中学生たちは、淑徳高校の学園祭の質の高さに感激し、第一希望で受験したいという気持ちになる生徒も多いようです。入試説明会では、入試に関する説明・入試相談などを行います。もちろん新校舎の見学も重要な部分となっています。4回とも相談も多く、本校への関心の高さがうかがえます。近年の共学志向の中で、より本校を理解していただくための良い機会になっていると思います。